

奥 建 第 420 号
平成20年10月22日

国土交通省 道路局長 様

島根県奥出雲町長 岩 田 一 郎



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

標記について、別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

① 道路行政全般についての改善すべき点、要望や提案など

島根県奥出雲町

道路の整備は、地域住民の利便性の向上、生活環境の改善等と共に、地域の産業・経済の発展に欠くことのできない重要な課題である。本町は中国山地沿いに位置しているため地形的条件や冬季間の降雪等、不利な条件を解消するために、道路の改良整備には多額の経費と日数労力を要している。現状は、限られた財源の中で有効かつ効率的な事業導入により計画的に改良整備を図っているものの、道路特定財源の一般財源化の方針の中、道路整備への財源配分が細ることが懸念される。一方、本町のような、公共交通の整備が遅れている中山間地では、日常生活に必要不可欠な自家用の自動車を、各家庭が複数台保有する（当町の場合、成人人口とほぼ同数の車保有台数）など、一人当たりのガソリン税負担は都会地でのそれに比べ相当高くなっている。然るに費用対効果などの指標が優先され、生活に密着した地方の道路整備は後回しにされようとしており、現在のような状況が続けば、地方は切り捨てられ、国民の平等な生活を保障することは出来ない。

また、島根県での高速道路の整備はいまだ立ち遅れており、その整備も急がれる。本町の場合は高速道路や高規格道路を利用するには隣接する最寄の IC までは概ね 1 時間を要し、そこへ通ずるアクセス道の整備も必要である。そして、山陰自動車道や尾道松江線が一日も早く全線開通し、それがネットワークとして機能することにより、地域住民にとって、ようやく整備効果の発現があると考ええる。

奥出雲町においても、必要な道路はいまだ多数ある中で、道路整備に当てる予算の確保が年々厳しくなってきている。

そのようなかで、

①道路整備に必要な予算は必ず確保していただきたい。

②道路整備にあたり国の補助率の嵩上げをお願いしたい。

③生活に密着した道路を地形的な条件や交通量等を考慮し、コスト縮減の視点からも弾力性のある幅員での整備に対しての支援の拡充をお願いしたい。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式②

島根県奥出雲町

○現状 道路を主体とする交通体系の確保は、産業、雇用、教育、医療等の基礎となるものであり、特に本町においては、地形、気象等の自然的・地理的条件が厳しく、都市部から遠隔な立地条件のため、日常生活圏が広域化せざるを得なくなっている。 国・県道をはじめとする基幹的道路網は、住民の生活基盤としてもはもとより、産業基盤さらには交流社会の基礎的な基盤としても極めて重要な役割を担っている。また、町道は、住民の利便性の向上や集落間の連絡、生活環境の改善等を旨して整備されてきたが、近年では国・県道や農業近代化施設、事業所などを結ぶ産業振興道路としての重要性が増している。	○課題 国道や主要地方道といった主要幹線道路はこれまで逐次整備が進められてきたが、本町のような中山間地は集落間が離れており、その集落を形成する家々は散在している場合がほとんどであるため、これらを結ぶようなその他の県道や町道はいまだ未改良区間が多数残されている。また、広域化を求められている今日、本町のように3県に接する場合にその県境をまたぐ道路整備の促進も重要である。これらの整備にあたり、財政的な支援や多様な事業導入が望まれている。 ◎具体的事項 ①市街地の通行隘路の克服 主要地方道玉湯吾妻山線 (写真1、2) ②県境を越えた交流や最寄ICへのアクセス改善 主要地方道横田多里線 (写真3) 一般県道奥出雲高野線 (写真4) 一般県道印賀奥出雲線 (写真5) ③集落を結ぶ町道改良 町道三沢山根線 (写真6) ④主要幹線道路の整備 一般国道432号 (写真7) 主要地方道出雲奥出雲線 (写真8) ⑤住民の安全・安心を守る除雪体制整備
--	--

本町は過疎化が進み住民が安心して生活できる環境づくりが喫緊の課題であり、その重要な要素が道路である。通勤・通学や買物等の日常生活はもとより、近隣市町村へのアクセスや、災害時等の孤立化回避のためのネットワークの構築等、道路の持つ重要性は今後も大きいものがある。そして、国道・県道はもとより生活道路としての町道の改良・整備は地域住民の日常生活にとって不可欠な条件であり、緊急車輛の進入確保や利便性の向上は、定住の促進にかかわる最も重要な課題のひとつである。

このように、幹線道路においては急速な交通量の増大や、大型車両の増加に伴い、2車線化の二次改良や、歩道の整備を進めていく。また、日常生活道路は、緊急自動車の進入ができにくい路線も多数あり、そうした路線は冬季間の除雪も十分な対応が出来ないため、住民生活の安定と地域の活性化を推進する上で、長期的かつ総合的な視点から改良整備を進めていく。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④
島根県奥出雲町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	都市と農村の地域間交流	交流人口の増大により地域特産品等の販売や生産拡大による地域経済の活性化や、U・I ターン者等による定住の推進が図られる。 地域の特色を生かした地域間交流による農村理解と農村の活性化。	
	観光によるまちづくり	本町には、国の天然記念物鬼の舌震、オロチループ橋、たたら製鉄で栄えた歴史をひかえる3箇所の博物館、世界の化石を展示する化石博物館、登山客で賑わう国定公園吾妻山・船通山、鯛ノ巣山等の観光資源が多数ある。 また、トロッコ列車も運行されているなど、宿泊施設である玉峰山荘、ヴィラ船通山、サイクリングターミナルへ県内外の多数の観光客が来町する。	
・水害等の災害に強い国土づくり	幹線道路や集落内道路のセーフティネットワーク化	災害時に孤立することのない安全安心な生活。 (平成 18 年災害時に町内各所で道路が寸断され住民生活に大きな支障が出た)	

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④

島根県奥出雲町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・少子・高齢化社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	歩道等の段差解消による歩行者等の保護	高齢者や障害者が歩行や電動三輪車等での通行に当たり不安なく利用できる安全性を確保。	
・良好な生活空間、自然環境の形成	除雪	山間部における除雪体制(除雪機械・オペレータ確保)の充実による日常生活や緊急自動車等の通行等安全安心な生活環境の確保。	

奥出雲町管内図



位置図

一般国道432号
主要幹線道路の整備
(写真7)

主要地方道玉湯吾妻山線
市街地の通行隘路克服
(写真1、2)

主要地方道出雲奥出雲線
主要幹線道路の整備
(写真8)

町道三沢山根線
集落を結ぶ町道
(写真6)

一般県道奥出雲高野線
県境を越えた交流
(写真4)

一般県道印賀奥出雲線
県境を越えた交流
(写真5)

主要地方道横田多里線
新見ICへの最短路線
(写真3)

項目	単位	数値
人口	人	1,234
面積	km ²	56.7
人口密度	人/km ²	21.6
世帯数	世帯	345
産業別人口	人	
農業	人	123
林業	人	45
漁業	人	12
工業	人	234
商業	人	56
サービス業	人	78

項目	単位	数値
人口	人	1,234
面積	km ²	56.7
人口密度	人/km ²	21.6
世帯数	世帯	345
産業別人口	人	
農業	人	123
林業	人	45
漁業	人	12
工業	人	234
商業	人	56
サービス業	人	78

主要地方道玉湯吾妻山線
(写真1)



奥出雲町の中心市街地である三成地区上三成地内の主要地方道玉湯吾妻山線は、奥出雲町仁多庁舎前を通るメインストリートであり、国道432号へ接続する市街地の動脈ともいえる路線であるにもかかわらず、途中で幅員が減少し、通行の隘路となっている。そのため付近の住民はもとより、周辺からの買い物客や公共施設への来訪者にとっても大きな願いとなっている。また、町においてこの拡張は住民の大きな願いとなっている。また、町においても家屋移転の際に移転先となる土地を確保し、事業に協力できる体制を整えている。

(写真2)



奥出雲町三成地区朝日町地内の主要地方道玉湯吾妻山線は、市街地へ入る玄関口であるとともに県都松江市へ通じる最短ルートとして交通量も多く、また、通学等の歩行者も多い区間である。しかし、JR線と国道314号にはさまれた地形的な理由により一部区間が未改良となっている。特に冬季間は急勾配であることや雪による有効幅の減少により通行の大きなネックとなっている。これらの改良は地域住民のみならず観光客をはじめ町外から来訪するたくさん利用者のためによって大きく利便性を高めるものである。

主要地方道横田多里線
(写真3)



主要地方道横田多里線は鳥取県日南町へ通ずる幹線として地域間交流をはじめとして古くから利用されてきた路線である。日常の生活圏としても医療や買物をはじめ奥出雲町の横田高校への通学など路線の持つ位置づけは大きいものがある。また、島根県東部から中国自動車道新見ICへの最短路線としてその整備は大きく期待されており、島根県と鳥取県の県境をさんだ約5kmの早期改良が住民の悲願となっている。

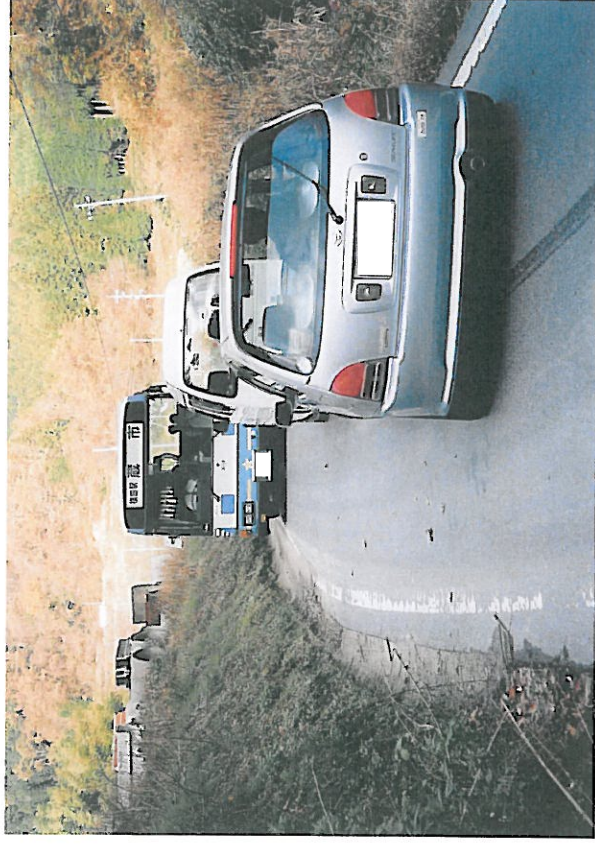
一般県道奥出雲高野線
(写真4)



一般県道奥出雲高野線は島根県と広島県を結ぶ路線であり、古くから地域の交流の街道として両県住民に親しまれてきた。

奥出雲町小馬木地区では広島市や松江市周辺からの体験農業やそば打ち体験などの地域間交流が盛んとなり、多くの来訪者が訪れるようになってきた。しかし、主要地方道玉湯吾妻山線分岐から広島県境へ向かつては幅員狭小で来訪者を乗せたバスの通行もままならない状況にある。地域間の交流を通じた地域の活性化や過疎対策としてもこの路線の整備は重要となっている。

一般県道印賀奥出雲線
(写真5)

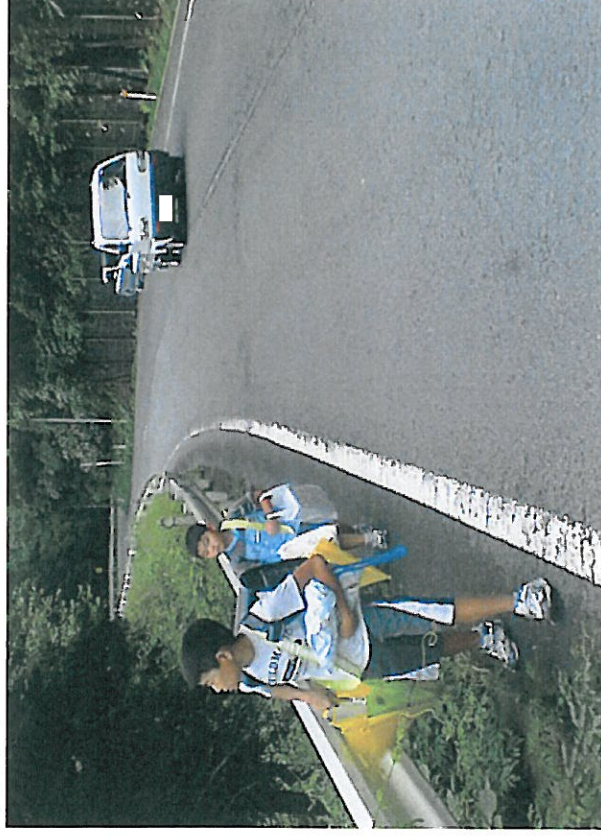


一般県道印賀奥出雲線は主要地方道横田多里線と並び鳥取県日南町へ結ぶ路線であり同様に日常生活に欠かせない路線となっている。また、特急停車駅である日南町のＪＲ生山駅への連絡路線として多くの通行車両がある。しかし、奥出雲町竹崎地区内は未改良の箇所が多く、路線バスをはじめ車両の通行に支障をきたしている。特に冬季節はスリップ事故も多く発生し、通行止めとなることもある。奥出雲町民のみならずＪＲ利用者をはじめとした多くの利用者がこの拡幅改良を待ち望んでいる。

町道三沢山根線
(写真6)



町道三沢山根線は奥出雲町上阿井地内から三沢地区を通過し中心市街地である三成地区へ結ぶ幹線町道である。また、隣県を結ぶバス路線も通っており、年次計画的に整備を進めている。昨今の財政事情によりその整備期間の延長が危惧されているが、道路整備の財源の確保により早期に全線の整備が完了されることにより、住民生活の利便性の向上が図られる。

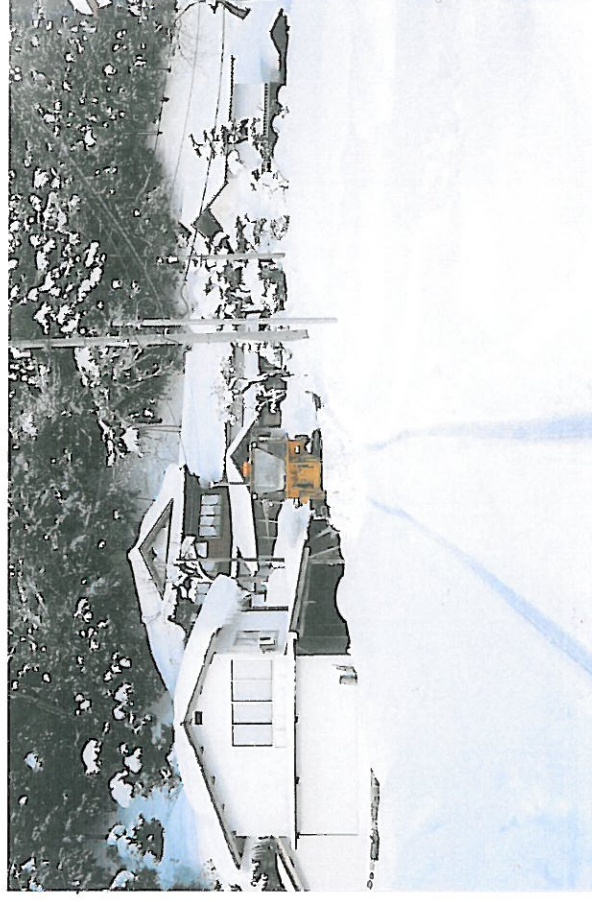


国道432号は島根県松江市と広島県竹原市を結ぶ主要幹線道路として島根・広島両県により鋭意改良整備が進められている。奥出雲町内においてもその整備がなされているところであるが、未改良区間が4km余りあり、改良率は84%となっている。しかし改良済みとされる区間でも歩道の未整備な箇所があり、通学児童等の歩行者の安全が脅かされている現状である。この路線の早期全線改良と歩道未整備区間の整備が待ち望まれている。



主要地方道出雲奥出雲線は本町から出雲市へ結ぶ最短路線として沿線市町の強い熱意により鋭意整備が進められている。しかし、本路線の改良率は雲南市45%（未改良区間8.2km）、奥出雲町46.8%（未改良区間2.9km）であり、出雲市の82.7%（未改良区間1.2km）に比べ大きく遅れている。この路線が改良整備されることによる効果は中山間地にある奥出雲町にとって都市圏へのアクセス道路としての利用はもとより沿線住民の生活にも極めて大きな意義を持っている。また、奥出雲町内の区間には異常気象時に通行規制が行われるところもあり、早期に全線の改良整備が完了されることによる住民生活への利便性向上は極めて大きなものがある。

冬季間の住民生活を守る除雪



(通勤通学時間までに必要な歩道除雪)



積雪寒冷地でもある奥出雲町は、例年、市街地でも50cmから1m、山間部では2m近い積雪を記録する。冬季の除雪作業は町有車両と業者の借り上げ車両により幹線道路は始発の路線バスの通行に間に合うよう行くと共に、生活道の除雪も積雪状況により順次行なっている。しかし、オペレーターの高齢化や建設産業の不振の影響を受け、車両の老朽化や更新が出来ないうなど除雪を取り巻く環境は年を追うごとに厳しくなっている。除雪作業は冬季における住民の生活や緊急車両の通行など住民生活の安全・安心確保に大きな責任を担っており、除雪費用や機材の維持費に支援を必要としている。